



榊 お清めミスト



試験対象および試験方法

<試験対象商品>

TOMO 榎お清めミスト 除菌ミスト

<配合表示成分>

水、PG(食添グレード)、尿素、グリセリン、アルキル (C12-14) ジアミノエチルグリシンHC I、デシルグルコシド、グリシン、ココイルアルギニンエチルPCA、アロエベラ液汁、サトウキビエキス、チャ葉エキス、ローズマリー葉エキス、サピンズストリホリアツス果実エキス、アラントイン、乳酸、BG(天然由来)

<試験対象菌・ウイルス>

- ・一般生菌数
- ・大腸菌群／大腸菌
- ・A型インフルエンザウイルス

<試験方法>

- ・一般生菌数 標準寒天培地を用いた混釈培養法で試験
- ・大腸菌群／大腸菌 デソキシコレート寒天培地を用いる定量試験

希釈水（比較対象物）、除菌ミスト（検査対象物）

雑菌水原液10mlを、それぞれ対象物90mlと混合させたものを寒天培地にて培養。（10倍希釈）

さらに、その混合液を10ml採り、対象物90mlと混合させたものを寒天培地にて培養。（100倍希釈）

さらに、その混合液を10ml採り、対象物90mlと混合させたものを寒天培地にて培養。（1000倍希釈）

- ・A型インフルエンザウイルス ASTM E 1052に準拠したプラーク法

（毒性試験）試験サンプル溶液0.9 mlにPBS 0.1 mlとSCDLP 9.0 mlを加え、その後10倍希釈系列を作製する。各希釈液を宿主細胞のMDCK細胞に加えた系列とMDCK細胞とインフルエンザウイルスの両方に加えた系列を作製し、4日間培養し、プラーク法により細胞毒性と感染阻害を判定する。

（抗ウイルス試験）試験サンプル溶液0.9 mlと試験ウイルス液0.1 mlを混和し、5分間静置する。その後、SCDLP 9.0 mlを加え、10倍希釈系列を作製し、プラーク法により作用後のウイルス感染価を求める。

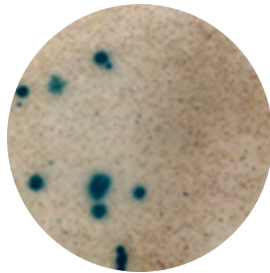
試験結果

<一般生菌数 殺菌効果試験結果>

「希釈水」、「除菌ミスト」、それぞれに雑菌水を混合し、5分間（室温）作用させる。

雑菌水原液

一般生菌数 多数につき計測不可



※青点はコロニー群

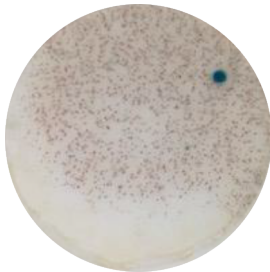
希釈水

TOMO 榊お清め
除菌ミスト

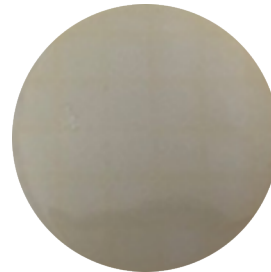
希釈 10倍

対象物 90ml
雑菌水原液 10ml

一般生菌数 5.1×10^4

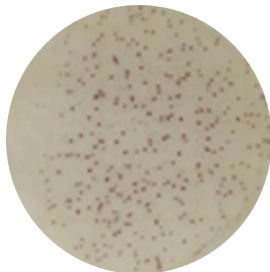


一般生菌数 >10以下



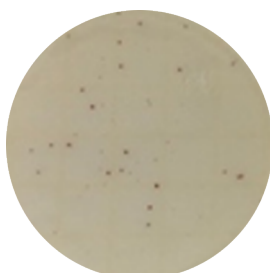
希釈 100倍

対象物 90ml
100倍混合液 10ml



希釈 1000倍

対象物 90ml
1000倍混合液 10ml



検査結果：除菌率99.99%

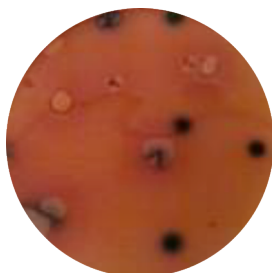
試験結果

<大腸菌群／大腸菌 殺菌効果試験結果>

「希釈水」、「除菌ミスト」、それぞれに雑菌水を混合し、5分間（室温）作用させる。

大腸菌群／大腸菌：陽性

雑菌水原液



※黒点はコロニー群

希釈水

希釈 10倍

対象物 90ml
雑菌水原液 10ml



大腸菌群／大腸菌：陰性

大腸菌検査は陰性になったが、
計測できない弱い菌を無数確認

TOMO 榊お清め
除菌ミスト



大腸菌群／大腸菌：陰性

検査結果：除菌率99.99%

検体名 ラビアン除菌液 Lot NO. 200414 採取日 2020年4月14日
試験日 2020年4月15日

| | 一般生菌数 | 大腸菌群／大腸菌 |
|-------------------------|-------------------|---------------|
| 雑菌水原液 | ※1 ∞ | ※2 陽性 / ※3 陽性 |
| 雑菌水10ml+ 希釈水90ml | 5.1×10^4 | ※4 陰性 / 陰性 |
| 雑菌水10ml+ ラビアン除菌液90ml | <10以下 | 陰性 / 陰性 |

※1 カウント不可能のため無限大とする
※2 7個確認
※3 10個確認
※4 陰性だが弱い菌を無数確認した

2020年4月17日

齋藤食品工業株式会社
品質保証部 難波あゆみ
静岡県富士市五貫島155-1
0545-61-1139



試験結果

＜A型インフルエンザウイルス ウイルスを用いた抗ウイルス性能評価試験結果＞

- 試験品の種類：液体
- 試験方法：ASTM E 1052を参考
- 無加工品名：PBS
- 試験品名：除菌ミスト
- n数：n = 1
- 試験ウイルス：Influenza A virus (H3N2) A/Hong Kong/8/68株
(A型インフルエンザウイルス、ATCC VR-1679)
宿主細胞：MDCK細胞 (ATCC CCL-34)
- 作用条件：作用時間 5分
作用温度 室温
- ウイルス感染価の測定方法：プラーク法

[試験の結果]

①毒性試験の結果

| 毒性試験 (インフルエンザウイルス) | 宿主細胞 (MDCK細胞) への毒性 | MDCK細胞への 感染に対する影響 | 毒性試験に基づく ウイルスの検出限界濃度 |
|-----------------------|-----------------------|----------------------|-------------------------|
| 除菌ミスト | 有り (原液のみ) | 有り (原液のみ) | 100pfu/ml |

②抗ウイルス試験の結果

| 抗ウイルス試験 (インフルエンザウイルス) | ウイルス感染価 (pfu/ml) | 抗ウイルス活性値 |
|--------------------------|------------------|----------|
| | 室温、5分 | |
| PBS (リン酸緩衝生理食塩水) | 1.9E+06 | — |
| 除菌ミスト | 1.7E+05 | 1.0 |

*「E+06」は $\times 10^6$ を表す。また、ウイルスの感染価は、作用終了後SCDLP9mlを加えた時の濃度を測定した値である。

・抗ウイルス活性値 = $\text{Log}(B) - \text{Log}(C)$ (B:対照品の感染価、C:サンプル品の感染価)

地方独立行政法人
神奈川県立産業技術総合研究所 溝の口支所
〒213-0012
神奈川県川崎市高津区坂戸三丁目2番1号 KSP西棟6階



試験所：
地方独立行政法人
神奈川県立産業技術総合研究所 殿町支所
研究開発部 評価技術センター 光触媒グループ
抗菌・抗ウイルス研究グループ 抗菌試験室
〒210-0821 神奈川県川崎市川崎区殿町三丁目25番13号

| |
|-------|
| 承認署名者 |
| 研究員 |
| 石黒 齊 |